

**福岡大城農業協同組合**  
**第三次 中期経営計画書**

( 取 組 事 項 )

平成 28 年度～平成 30 年度

～「ありがとう」があふれるJAの実現に向けて～



## ≡CONTENTS≡

---

### 第三次中期経営計画

I. JA を取り巻く環境と中期経営計画の策定にあたって	・・・	1
II. 前回の中期経営計画を振り返って	・・・	2
III. 中長期ビジョン・中期経営計画基本方針	・・・	7
IV. 各部門の方針および取組み事項	・・・	8
V. 主要事業取扱高計画	・・・	12
VI. 総合計画	・・・	14

# 第三次中期経営計画

## I. JAを取り巻く環境と中期経営計画の策定にあたって

わが国の経済情勢は、長期にわたるデフレ経済が続くなか、第2次安倍政権は日銀による大胆な金融政策、機動的な財政政策による経済対策、規制緩和等による民間投資を喚起する成長戦略によりデフレ解消と経済成長政策に取り組ましました。

しかしながら、平成26年の消費税増税による景気減退、円安・原油安等により安倍政権の成長戦略に後退感が見られてきています。

農業を取り巻く環境は、耕作面積の減少、農畜産物の販売価格の下落による農業所得の減少・就農者の高齢化と後継者の減少そして地域農業の担い手の減少と厳しい農業情勢のなか、TPP（環太平洋連携協定）の大筋合意により今後は国会での批准手続きが進められていくこととなりますが、今後は地域経済や農業に大きな影響を及ぼすだけでなく、医療・食の安全・安心など私たちの生活が大きく変わる可能性があり、引き続きTPP反対を訴えていく必要があります。

一方、JAを取り巻く情勢は、安倍政権の規制改革会議は全中の解体・全農の株式会社化や外部監査の導入などの提言を行い、政府は農協法が改正し、平成31年3月までに全中は一般社団法人への移行・JAの監査は公認会計士監査移行、そしてJAの理事要件に認定農業者または農畜産物販売・法人の経営等に関し実践的な能力を有する者が過半を満たすことが求められました。また、事業運営原則には「農業所得の増大にむけた最大限の配慮」、「組合員及び会員のための最大の奉仕」、「農畜産物の販売その他事業による高い収益性の実現」が明記されました。

この農協法改正に対して、JAグループは『農業者の所得増大』・『農業生産の拡大』・『地域の活性化』を旨としたJA自己改革に取り組み、さらなる農業振興と地域への貢献に取り組むこととしております。

JA福岡大城ではこのような情勢のなか、組合員・役職員インタビューの実施と第2次中期経営計画を振り返りながら平成28年度から3カ年の第3次中期経営計画を策定しました。

今回の計画では、前回に引き続き中長期ビジョンとして「ありがとうがあふれるJAを実現します」を設定し、基本方針として「農業者の所得増大」と「農業生産拡大」に向けた販売強化と生産コスト低減の取組み、JAファンづくりに向けた地域密着活動の実践を通して豊かで暮らしやすい地域社会づくりの取組み、将来を担う人づくりと中長期的な安定的経営基盤の確立に取り組めます。

今回の第3次中期経営計画の実践・達成に向け役職員一体となって取組み、「ありがとう」があふれるJAの実現を目指していきます。

## Ⅱ. 前回の中期経営計画を振り返って

第二次中期経営計画では、平成24年5月に実施した3支店体制の充実のための出向く体制（営農指導員（TAC）による巡回・複合渉外による訪問・家庭訪問活動）づくりの強化、JAファンづくり活動による組合員・地域住民の皆様との絆づくり、また、大川支店・大川給油所の建設と新規事業として葬祭事業を実施し、「ありがとう」があふれるJAの実現に取組みました。

そのほか、営農経済部門においては、第3次地域農業振興計画の実践による園芸・特産品目販売高の維持と土地利用型法人の設立に取組みました。

職員についても、専門資格の取得や各種研修会への参加により知識向上、自己啓発に取り組んでおり、今後も積極的に取組むことでさらなる職員の資質向上に努めます。

中長期ビジョンとして掲げた「ありがとう」があふれるJAの実現についても、持続的な取組みが必要であると認識しています。

今回、第三次中期3カ年経営計画の策定にあたり、各部門ごとの第二次中期経営計画の振り返り総括は以下のとおりとなっております。

### 【営農経済部門】

営農経済部門では、前回の最重要課題である農家所得向上のため、営農指導員（TAC）の農家巡回、定期的な栽培講習会の実施とともに多様な販売チャネルに対応した販売体制の強化と全農ふくれんと連携した専パッケージセンターの設置を行いました。

また、組合員から要望の多かった葬祭事業については平成27年11月より実施しています。

今後とも、農家所得の向上・農業生産の拡大に向けた課題解決に取り組んでいきます。

部門重点事項	取組項目	取組結果		今後の取組み
営農指導員（TAC）による訪問活動と支店を「核」としたJAファンづくり活動に取組み、「ありがとう」を集めます	営農指導員（TAC）の訪問活動の強化と、農家所得向上のための農家経営支援に向けた取組み	①農家情報収集の実施 ②個別法人化研修会の実施	①50名/TAC1人 ②10法人設立	営農指導員（TAC）は担当者のレベルアップによる組合員との信頼関係構築に取組む。法人化に向けた個別支援は継続して実施し、法人設立後の支援に対しても検討を実施していく。
	JAファンづくり活動を通じた地域とのコミュニケーション強化の取組み	①収穫体験、直売所イベントの実施 ②直売所ポイントカードの導入 ③地域フォーラムの実施 ④学童農園の実施	①収穫体験年5回、直売所イベント年13回 ②210件回収 ③年1回（150名） ④管内11校	収穫体験・イベントについては直売所出荷者協議会・くるん農業塾と連携し継続して実施する。地域フォーラム、学童農園についても地元農産物のPR、地産地消による食農教育を引き続き取組んでいく。
	広報活動とJA内情報化によるJAファン拡大および期待に応えることができる職員育成の取組み	①広報への情報提供 ②中央会主催研修会への参加	①月5回程度	広報担当部署への情報提供の徹底による情報発信に取組む。また、ありがとうプロジェクトについても他部門・他部署と連携を図る。研修会、資格取得についても積極的な受講・資格取得に取り組んでいく。
農家所得向上のための販売体制の強	農産物の販路拡大および効果的・効率的な販	①規格外品の販売 ②元気つくし、麦作	②元気つくし 54%	農産物のブランド化、また、多様な販売チャネル（品目別）に対応した企画を検

部門重点事項	取組項目	取組結果		今後の取組み
化と生産コスト削減に取り組み、「ありがとう」を集めます	売体制整備の取組み	付け拡大 ③直売所他 J A 相互融通 ④直売所出荷者ミーティング、栽培講習会	麦 86% ③ J A 柳川、みなみ筑後、ふくおか八女等 ④全体ミーティング年 12 回、栽培講習会年 3 回	話し販売力強化・販路拡大に取組む。米については元気つくしへの作付け誘導、麦は反収およびタンパク含有率の向上に取組む。直売所については、他 J A との相互融通拡大等による販路拡大に取組んでいく。
	競合相手との価格競争に対する取組み	①組合員組織会議での意見徴収 ②内部研修会の実施 ③大川給油所建設	②月 1 回 ③H27.7 オープン	組合員組織会議は継続して参加し、意見要望を取り入れ価格反映に努める。また、複数回の現場巡回による組合員との信頼関係の構築に取組んでいく。
	安全安心な農産物提供のための品質管理の徹底への取組み	①生産履歴回収 ②残留農薬検査の実施 ③食品衛生等に係る研修会	①97% ②違反なし ③年 1 回	生産履歴については 100%回収できるよう会議等で周知徹底に取組む。残留農薬検査や各種研修会等についても継続していく。
組合員のニーズに応える新規事業と J A 基盤強化のための施設や組織の再構築に取り組み、「ありがとう」を集めます	女性や高齢化に対応して組合員の豊かな生活を実現するための暮らしに役立つ事業の取組み	①ふれあい広場（安心の広場） ②葬祭事業の実施	①年 10 回 ②H27.11 オープン	ふれあい広場については今後も継続し、高齢者に対応した内容で実施する。葬祭事業については、利用者増加に向けた広報活動並びに利用者に満足いただけるサービスの提供に取組んでいく。
	組合員組織との連携および営農組合・担い手・部会組織・女性部・青年部育成支援の取組み	①各組織会議での情報提供 ②シルバー会員研修開催 ③女性大学開催	①各組織により随時、月の定例会等 ②2 回 ③年 4 回	各組合員、認定農業者、部会組織会議での情報提供や組織代表者会での意見収集を継続して実施する。青年部組織、女性部組織の活性化に向けても継続していく。
	組合員の高齢化や消費者ニーズに対応した効果的・効率的な経済関連施設整備の取組み	①毎パッケージセンター稼働 ②カントリー施設修繕 ③高収益型補助事業の実施 ④遊休施設調査実施	①H26. 11 から ②修繕実施 ③116 名（3 カ年） ④年 1 回	毎パッケージセンターについては、現在 25 名の利用者があり、面積で 6 h a の稼働、カントリー施設の修繕等については計画的に取組む。高収益型補助事業については資材高騰への対応を検討しながら継続的に実施し、新規就農者の増加に向けて遊休施設の調査等を行い、情報提供に取組んでいく。

※販売チャネル・流通経路

※ありがとうプロジェクト・地域密着活動を通じて J A と組合員・地域住民との絆づくりを行う J A ファンづくり

※T A C・Team for Agricultural Coordination の略。地域農業の担い手に出向く J A 担当者の愛称

#### 【金融共済部門】

金融共済部門では、組合員・地域の皆様からご利用いただける金融機関として、組合員との絆づくりと J A ファンづくり活動の展開による地域に愛される金融機関を目指し取組みました。

今後は J A グループの組織力を生かしたサービスの提供と渉外職員の資質向上に取組み、地域に密着した金融機関を目指していきます。

部門重点事項	取組項目	取組結果		今後の取組
渉外担当者による訪問活動の強化と支店を「核」とした J A ファンづくり活動に取り組み、「ありがとう」を集めます	渉外体制整備による組合員宅の玄関が J A の窓口となる取組み	①全戸訪問活動の実施 ②効果的な見込客選定の実施	①10件/日	あんしんチェックの活用による訪問活動について、顧客にマッチした計画と戦略をたて各支店渉外担当者が一斉に統一し訪問する。また、より効果的な見込客選定をおこなえるように顧客情報の収集と調査を習慣づける。
	J A ファンづくり活動を通じた来店客増加の取組み	①住宅ローン、年金、相続等各種相談会開催 ②近隣 J A と連携したイベント開催	①毎年3回実施 ②毎年3回実施	集客方法の見直し、相談内容等を事前把握する事でその成果を高める。又、幅広くイベントに参加してもらえるよう、案内方法、イベント回数など考慮しながら継続し開催していく。
	積極的な広報活動を通じて J A の金融・共済商品をもっと知ってもらう取組み	①ホームページ、新聞広告等での P R 活動 ②手作りチラシの作成 ③部門支店間の情報の共有化	①毎年2回実施 ②毎年3回実施 ③毎月実施	渉外担当者を中心とした商品情報の発信と地域住民に親しまれるチラシを作成し、支店への来店、集客を行う。以後のアプローチのために、渉外担当者と各部門、部署での情報を共有化し、連携を図っていく。
J A の強みを生かし、組合員・利用者のニーズに応じたサービス、商品の提案に取り組み、「ありがとう」を集めます	J A らしさを生かした貯金・年金事業の強化に向けた取組み	①オリジナル貯金商品の開発 ②年金友の会会員との絆づくり	①毎年2回実施 ②毎年3回実施	オリジナル商品による年間を通じたキャンペーンを実施し、又、年金友の会会員向けという独自性を出した商品開発、イベントの開催に取組む。参加が少ない会員への参加への呼びかけを行い、参加者の偏りをなくし、幅広い参加者を得ていく。
	J A らしさを生かした共済事業の強化に向けた取組み	①交通安全教室開催による J A 共済イメージアップ活動 ②3Q訪問活動による保障点検活動の実施	①25年度実施 ②3000世帯/年	低年齢層を対象とした交通安全教室開催等による J A 共済のイメージアップを図り、あんしんチェックの活用による訪問活動を継続して行う。
	J A らしさを生かした融資事業の強化に向けた取組み	①各種小口ローン、住宅ローンの伸長 ②担い手支援事業	①住宅ローン146件 リフォーム35件 マイカー186件 教育29件 ②就農支援資金22件 他農業制度資金16件	小口ローン、カードローン利用拡大による住宅ローン利用者の取引の深耕。担い手支援として営農部門、行政機関と連携し、新規就農者等への融資支援を強化していく。
誇り(自信)をもって組合員サービスができるプロ職員 の育成ができる仕組みづくり に取り組み、「ありがとう」 を集めます	O J T (職場内教育)を中心としたプロ職員 の育成に向けた取組み	①部署内での勉強会、意見交換会の開催 ② C S 研修会の実施 ③ L A トレーナーの育成配置	①毎月1回月実施 ②毎年2回実施 ③配置なし	各自の課題点が理解できるよう、問題意識をもって勉強会に参加させ、知識とプロ意識の向上を目指し、組合員、利用者の顧客満足度の向上を図っていく。又、L A トレーナー配置の要望と合わせ、各 L A の育成指導を行っていく。

部門重点事項	取組項目	取組結果		今後の取組
誇り(自信)をもって組合員サービスができるプロ職員の育成ができる仕組みづくりに取組み、「ありがとう」を集めます	組合員ニーズを把握し、期待に応えることができる職員育成への取組み	①職員育成モデルと研修計画の作成 ②簡易窓口CS調査の実施	①毎年3月に計画 ②毎年1回実施	金融担当職員の事務スキルの現状を把握し、職員育成モデルを作成し、より具体的な研修計画の協議を行っていく。又、CS調査で得た意見を検証し実践していく。
	事務処理の改善など効率的な支店運営に向けた取組み	①日々の業務マニュアルの作成 ②事務処理の迅速化	①毎月1回実施 ②毎月1回実施	担当者等にて本支店担当者の事務改善のため、重点項目についてマニュアルを作成し、共通の課題と認識させ知識の向上を図り、事務の正確性と迅速化を目指す。

※3Q訪問活動・3つの質問(クエスチョン)とありがとう(サンキュー)の造語

※CS・顧客満足度

※LA・ライフアドバイザーの略。生活全般の相談にのったり、アドバイスを専門的な知識をもったうえで行う。

#### 【総務企画部門】

総務企画部門では、家庭訪問活動の強化をはじめとした3支店を核としたJAファンづくり活動に取組み、施設の再構築と組合員からニーズがある葬祭事業の立上げに取組みました。

また、今後のJAを担う人づくりと、持続可能なJAの組織・経営基盤の確立に取組みました。

今後は、経営基盤の確立およびリスク管理態勢の強化に努め、組合員・地域住民の皆様に貢献できるJAづくりに取組んでいきます。

部門重点事項	取組項目	取組結果		今後の取組
家庭訪問活動の強化と支店を「核」としたJAファンづくり活動に取組み、「ありがとう」を集めます	家庭訪問の目的、手法を再認識することによる組合員との信頼関係の構築に向けた取組み	①家庭訪問の実施 ②組合員意見を取り纏めJA内部での掲示による回覧 ③部長支店長会による実績検討	①報告書提出 100% ②毎月掲示 ③毎月開催	今後とも家庭訪問の実施により組合員とのふれあいづくり、意見・ニーズの把握を実施する。
	支店を核としたJAファンづくり活動の実践に向けた取組み	①農業まつりの実施 ②支店まつり実施・地域まつり祭り参加 ③組合員加入運動の実施	①年1回開催 ②毎年実施 ③女性部・直売所出荷者との連携	農業まつり・支店まつり・地域まつりへの参加により地域密着活動の実施と斎場と連携した組合員募集に取組む。
	広報活動強化によるJA情報の発信の取組み	①ホームページ更新回数 ②広報誌の発行 ③内部情報誌の発行	①毎月2回程度 ②年6回発行 ③毎月発行	広報誌の定期的発行、農業新聞への投稿によるJA情報の発信及びホームページの更新回数の増加による情報発信強化とJA事業への活用を検討する。
組合員のニーズに応える新規事業とJA	遊休施設の再構築の取組み	①斎場の建設	①平成27年11月竣工	老朽化施設の再構築の検討と営農センター・集荷場の集約の検討および

部門重点事項	取組項目	取組結果	今後の取組	
基盤強化のための施設や組織の再構築に取組み、「ありがとう」を集めます		②遊休施設(旧支所・農業倉庫等)の売却・整理・賃貸		びカントリーの計画的な改修を実施する。
	総代、女性、組合員組織のJA参加・参画に向けた取組み	①女性総代加入チラシの作成 ②女性組合員向け研修会の開催 ③組織代表者会の開催	①女性総代 56名(全体の10.5%) ②26年度実施 ③毎年2回実施	女性のJA参画については、継続的な増加運動に取組む。また、次回の総代改選にあわせて総代研修会を企画し、総代の積極的なJA参画促進に取組む。 組織代表者会についても継続して各組織との意見交換に積極的に取組む。
人財育成のための仕組みづくりや職員の意識改革と活力ある職場風土づくりに取組み、「ありがとう」を集めます	人づくり基本方針の見直しと人事諸制度の再構築の取組み	①役職定年制度の見直し ②職員アンケートの実施 ③資格取得報奨金制度の導入	①57歳に延長(H27~) ②H26年度実施 ③H27年度導入	人事諸制度(賃金、職能資格、退職金等)の全面的な見直しを実施し、働きがいのある職場づくりに取組む。また、適正要員の分析による効果的な業務運営ができるよう適正人員配置に取組む。
	将来を担うJA職員育成の取組み	①経営幹部職員養成講座および女性ビジネスカレッジ受講 ②JA南筑後・JA柳川との合同研修会の実施	①4名 ②年1回(部門別)	将来を担うリーダー職員育成のため継続して受講する。近隣JAとの合同研修についても継続して取組む。
	OJT(職場内教育)を中心とした活力ある職場風土づくりの取組み	①階層別研修会の実施 ②コンプライアンスマニュアルの更新	①毎年実施 ②H27更新	階層別研修は継続して実施し、階層ごとの役割の理解、またモチベーションの向上に取組む。
JAのあるべき姿を創造し、持続可能なJA運営に向けた組織・経営基盤の再構築に取組み、「ありがとう」を集めます	コンプライアンス強化に向けた体制の再構築の取組み	①金融共済部門の連続職場離脱 ②コンプライアンス・階層別研修会の実施 ③リスク管理課設置によりコンプライアンス担当部署の体制強化	①毎年実施 ②毎年実施 ③平成27年度新設	内部監査の実施と人事ローテーション実施要領により不祥事未然防止に取り組みとともに特定個人情報(マイナンバー)・個人情報保護に取組む
	中期経営計画の徹底した進捗管理と達成に向けた取組み	①実行計画書の提出やチャレンジシート提出による進捗管理の実施		中期経営計画に基づく実行計画書・チャレンジシートの作成と振り返りシートによる上席者との面接による進捗管理を実施する
	経営基盤の確立とJA間ネットワーク、事業・機能の協同化研究の取組み	①財務健全化目標数値 1.自己資本比率(12%以上) 2.固定比率(100%以上) 3.不良債権比率(3%以下) 4.人件費比率(150%以上)  ②短期損益の検証	① 1. 22.09% 2. 180% 3. 1.88% 4. 171%  ②毎月実施	経営基盤の確立に向けて部署・部門採算性の検証を行い、効率的な人事配置と事業運営に取組むとともにJA間ネットワーク研究に取組む。



### Ⅲ. 中長期ビジョン・中期経営計画基本方針

J A福岡大城では、中長期ビジョン※の達成のために以下の方針に基づき、平成28年度から3カ年の中期経営計画の達成に向けて取り組めます。

※中長期ビジョン・・・おおむね5年から10年後に実現すべき組織の姿

#### 《中長期ビジョン》

## 「ありがとう」があふれるJAを実現します

～私たちは、次の想いを胸に、行動します～

私たちJA職員は、皆様へ「ありがとう」を伝えます

私たちJA職員は、皆様からの「ありがとう」を集めます

#### 《第三次中期経営計画基本方針》

1. 「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に向けた販売強化と生産コスト低減に取り組み、「ありがとう」があふれるJAを実現します
2. JAファンづくりに向けた地域密着活動の実践を通じて豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組み、「ありがとう」があふれるJAを実現します
3. 将来を担う人づくりと中長期的な安定的経営基盤の確立に取り組み、「ありがとう」があふれるJAを実現します

#### 【中長期ビジョン注釈】

私たちJAは、組合員・地域の皆様と役職員により支えられて成り立っているということを忘れず、常に「ありがとう」の気持ちを持って行動し、「ありがとう」の一言を伝えていきます。

組合員に向けては、最重点課題である農家所得の向上に向けてしっかりと取り組み、組合員の皆様との親密なお付き合い・ふれあいを通じて、「ありがとう」の一言を集めます。

地域に向けては、安全・安心・新鮮な農産物の提供はもちろんのこと、皆様の暮らしに役立つお手伝いや地域との交流を通して、「ありがとう」の一言を集めます。

役職員に向けては、役職員で協力しあう気持ちを持って仕事に取り組み、働きがいのある職場づくりを通して、「ありがとう」の一言を集めます。

組合員、地域、役職員の間を「ありがとう」の気持ちでいっぱい満たすために、役職員一人ひとりが「ありがとう」の気持ちを伝え、「ありがとう」の一言を集めるために行動します。

小さなこと、些細なことでも「ありがとう」を伝え、「ありがとう」を集めることによって私たちが目指すJAが実現すると信じます。この「ありがとう」の想いを胸に行動することで、JA福岡大城は成長していきます。

## IV. 各部門の方針および取組み事項

### 営農経済部門方針

J Aの基軸である営農経済部門では、「農業者所得の向上」「農業生産の拡大」を実現のために、最重点課題である「農家所得の増大」へ挑戦に向けた、生産技術の向上、販売強化、生産資材コスト低減へつとめます。「農業生産の拡大」の取組みとして、地域農業基盤の強化、地域農産物の情報発信、担い手組織、法人への対応強化へつとめます。

#### 部門重点事項・取組み項目・取組み具体策

#### 1. 産地振興と農業所得の増大と農業生産の拡大に挑戦し、「ありがとう」があふれるJ Aを目指します

##### (1) 消費者・実需者のニーズを的確にとらえた生産販売の取組み

- ① 福岡大城ブランドの確立による販売強化
- ② 市場流通と多様な販売チャネルの対応による有利販売の実践
- ③ 安心・安全な農産物生産の取組み（栽培履歴の記帳・管理の徹底、残留農薬検査など）
- ④ 実需者から求められる米の作付け誘導

##### (2) 生産資材価格の引き下げと低コスト生産の支援体制づくりと競合相手との価格競争に対する取組み

- ① 担い手経営体等の利用状況や取引条件等に応じた価格設定
- ② P B（プライベートブランド）販売資材の提案
- ③ 予約注文の手法の検討とサービスの提供
- ④ 各組織との情報、意見交換によるJ A利用率向上への取組み

##### (3) 農業生産の拡大を進めるための新規就農者と担い手育成の取組み

- ① 新規就農者に対する支援と対応強化
- ② 集落営農組織の法人化に向けた取組みと経営支援
- ③ 補助事業等の活用による新規就農者、既存生産者の規模拡大への支援
- ④ 雇用型経営の振興による生産規模拡大への取組み

##### (4) 地域の特色を活かした農産物の生産拡大への取組み

- ① 直売所のJ A間での農産物融通
- ② 直売所出荷者への作付按分の誘導と出荷指導の徹底
- ③ 加工品の開発
- ④ 研修会の充実を図ることによる麦、大豆の反収向上

#### 2. 組合員の期待に応える職員の育成と組合員の利便性を高める体制づくりに取組み、「ありがとう」があふれるJ Aを目指します

##### (1) 部門間連携による訪問・相談活動の強化への取組み

- ① 情報提供・相談対応のための担い手への定期的な巡回の実施
- ② 役職員部門間の情報提供
- ③ 各部門の役割の再認識と担当者研修会による知識の向上
- ④ 継続した訪問によるJ Aと組合員の信頼関係づくり

##### (2) 営農経済部門の人材育成の取組み

- ① 研修（現場）の実践による職員の専門的知識の向上
- ② 任意組織・法人への職員の経営支援体制づくり
- ③ 専門職の後継者育成の取組み（農機センター等）

### **(3) 業務効率をあげるための営農経済関係施設整備に向けた取組み**

- ① カントリー、大豆集荷施設等の改善と検討
- ② 営農経済関連施設の利用効率化を図るための整備検討
- ③ 利便性向上に向けた組合員カード発行の検討
- ④ 農機具センターの広域化に向けた検討

## **3. 地域に寄り添い地域と共に歩いていくJAづくりに取組み、「ありがとう」があふれるJAを目指します**

### **(1) JAファンづくりに向けた地域密着活動の実践による地域コミュニティ活性化の取組み**

- ① 組合員・地域住民のニーズに応える活動の取組み
- ② 各組織と一体となった農業まつり、支店祭りなどイベント参加による地域密着活動の実践

### **(2) JA発信の地域農業振興活動への取組み**

- ① 直売所収穫体験等のイベントの開催
- ② 各種イベントにおける試食宣伝販売を通じた地元農産物のPR活動
- ③ 地域フォーラムの開催による地産地消・食育活動の継続

### **(3) JA事業の地域へのPR活動の取組み**

- ① 地域住民への情報発信
- ② 直売所ポイントカードの有効活用、イベント開催の案内、情報提供
- ③ 葬祭事業のPRの強化

※PB（プライベートブランド）・・自ら企画開発した低価格商品につける独自の商標

## **金融共済部門方針**

組合員・地域の皆様にご利用いただいている金融共済部門では、組合員・利用者には選ばれる商品・サービスを提供し、豊かで暮らしやすい地域づくりに貢献することで、JA仲間づくり（JAファンづくり）を展開、拡大していきます。また、組合員・利用者のニーズを踏まえ、安心・信頼を提供できる、きめ細やかなサービスで応えることができる職員育成に取組み、組合員、利用者、地域に親しまれる金融機関を目指します。

### **部門重点事項・取組み項目・取組み具体策**

## **1. 地域の活性化を応援し、地域貢献活動に取組み、「ありがとう」があふれるJAを目指します**

### **(1) 地域密着活動を通じた地域活性化の取組み**

- ① 地域密着活動を通じJAファンづくりの取組みの強化
- ② 融資、年金、相続の相談会の開催
- ③ 3JA（福岡大城・柳川・みなみ筑後）と合同でのイベントの開催

### **(2) 積極的な広報活動を通じてJAの金融、共済商品のPR活動の強化の取組み**

- ① 組合員・地域住民への金融・共済商品の情報発信
- ② 取引先との深耕と新たなお客様の創造

### **(3) 地域の実態、ニーズを踏まえた総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮に向けた取組み**

- ① 農業と地域・利用者から求められる金融サービスの提供と地域貢献
- ② 総合事業の強みを反映させた取組みの強化

## **2. JAらしさを活かした、金融商品の開発とサービスの向上に取組み、**

## 「ありがとう」があふれるJAを目指します

### (1) JAグループという組織力を生かしたサービス・付加価値の提供の取組み

- ① 推進資材をいかすための環境整備への取組み
- ② 安心キャンペーン保障点検の完全実施

### (2) 事務処理改善などの効率的な支店運営に向けた取組み

- ① 担当職員の支店内での知識の共有化
- ② 利用者から喜ばれる金融サービスの提供及び利便性の向上
- ③ 共済処理の迅速化、効率化

### (3) JAらしさをいかした貯金、融資、年金、共済の強化に向けた取組み

- ① 取引強化に向けた貯金商品の開発
- ② 新規年金殿の会員の拡大
- ③ 生活関連ローンの提供
- ④ JAグループ一体となり、JAバンク、他関係機関に対する農業資金利子補給拡大の働きかけ

## 3. プロ職員育成と出向く体制強化に取組み、

### 「ありがとう」があふれるJAを目指します

#### (1) 渉外体制の強化に向けた取組み

- ① 渉外年間活動計画の策定による全戸訪問活動
- ② 渉外担当者を中心とした推進体制の確立

#### (2) OJT（職場内教育）を中心としたプロ職員の育成に向けた取組み

- ① 実践的な研修会の実施（ロールプレイング等）
- ② CS（顧客満足度）研修会の実施
- ③ LAトレーナーの定着促進と育成強化

#### (3) 組合員ニーズを把握し、期待に応えることができる職員教育への取組み

- ① 内部研修会や同行訪問制度での若手職員の育成
- ② 研修・勉強会による窓口接客の向上

※生活インフラ・・・日々の生活を支えるものことで生活基盤。

## 総務企画部門方針

総務企画部門では、第三次中期3カ年経営計画の着実な実践の進捗管理を行うとともに、将来の合併に向けた経営基盤の確立と施設の再構築および、リスク管理態勢の強化に努めます。

また、組合員、地域住民の皆様にご貢献できるJAを目指し、JAファンづくり活動の実践による絆づくりと将来のJAを担う人材育成に取り組めます。

### 部門重点事項・取組み項目・取組み具体策

#### 1. JAファンづくり活動の充実による地域・組合員との絆づくりと、

JA基盤強化のための施設の再構築に取組み、「ありがとう」があふれるJAを目指します

##### (1) 組合員と地域住民のニーズに応じた地域密着活動とJAファンづくりの強化への取組み

- ① ありがとうプロジェクトによる地域密着活動の実施
- ② 家庭訪問活動による組合員ニーズの把握

## **(2) 組合員のJA参加・参画に向けた「場」づくりへの取組み**

- ① 組合員加入増加に向けた取組みの実施
- ② 広報誌・ホームページによる情報発信の強化
- ③ 総代・女性・組合員組織のJA参加・参画の活動強化

## **(3) JA基盤強化のための施設の再構築に向けた取組み**

- ① 施設の再構築（集約・建設）の検討及び実施
- ② 遊休施設の活用と整理の検討

## **2. 人づくり基本方針の構築による職員の意識改革と働きがいのある職場づくりに取組み、「ありがとう」があふれるJAをめざします。**

### **(1) 職員の意識改革及び将来のリーダーづくりに向けた取組み**

- ① 協同組合理念教育の実施
- ② 階層別（意識改革）研修会の実施

### **(2) 人材育成計画の策定による効果的な人材育成に向けた取組み**

- ① 人材育成計画の策定
- ③ 職員の適正配置
- ④ 資格取得による職員の育成強化

### **(3) 人事諸制度の全面的な見直しに向けた取組み**

- ① 職能資格制度の見直し
- ② 人事考課制度の見直し
- ③ 退職金制度の見直し

## **3. 中期経営計画の実践と組織・経営基盤の構築に取組み、「ありがとう」があふれるJAをめざします**

### **(1) 総合的なリスク管理態勢の強化に向けた取組み**

- ① 不祥事未然防止対策の強化
- ② 内部監査計画の実施
- ③ 法令に対応した個人情報の管理

### **(2) 中期経営計画の進捗管理と達成に向けた取組み**

- ① 中期経営計画の目標値を意識した進捗管理
- ② 単年度計画との整合性の検証
- ③ 場所別部門別損益分析の検証

### **(3) JA経営健全化とJA間事業・機能の協同化に向けた取組み**

- ① 経営分析による財務健全化目標の検証
- ② JA間事業・経営管理機能の協同化研究

## V. 主要事業取扱高計画

### 信用事業

#### 事業取扱高計画

(単位：千円)

項 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
運用	預 金	残 高	39,701,029	39,500,000	40,300,000	40,500,000
		平均残高	37,985,789	39,000,000	39,500,000	39,800,000
	有価証券	残 高	1,098,401	800,000	300,000	300,000
		平均残高	1,109,877	865,000	410,700	300,000
	貸出金	残 高	5,102,885	5,370,000	5,450,000	5,600,000
		平均残高	5,456,098	5,350,000	5,340,000	5,500,000
調達	貯 金	残 高	45,614,629	45,620,000	45,800,000	46,000,000
		平均残高	44,767,915	45,100,000	45,300,000	45,500,000
	借入金	残 高	81,363	90,500	85,500	75,000
		平均残高	121,039	118,400	109,000	101,500

### 共済事業

#### 事業取扱高計画

(単位：千円、台)

項 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
長期共済	新契約高	13,876,670	16,500,000	17,000,000	17,000,000
	保有高	182,214,510	176,000,000	170,000,000	164,000,000
年金共済	新契約高	66,800	70,000	70,000	70,000
	保有高	907,960	960,000	960,000	960,000
短期共済	自動車共済(掛金)	194,567	194,000	197,000	200,000
	自 賠 責 (台数)	2,595	2,400	2,500	2,600
	火 災 (掛金)	2,374	2,300	2,300	2,300
	傷 害 (掛金)	1,795	1,700	1,750	1,750

## Ⅵ. 総合計画

### 購 買 事 業

#### 事業取扱高計画

(単位：千円)

項 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
生産資材	肥 料	335,426	340,000	340,000	340,000
	農 薬	268,643	261,000	261,000	261,000
	農 機	151,392	130,000	130,000	130,000
	燃 料	436,434	470,000	470,000	470,000
	その他生産資材	611,247	661,000	661,000	661,000
	小 計	1,803,142	1,862,000	1,862,000	1,862,000
生活資材	食 料 品	50,546	64,000	64,000	64,000
	プロパンガス	136,500	145,000	145,000	145,000
	その他生活資材	16,238	17,000	17,000	17,000
	小 計	203,284	226,000	226,000	226,000
購買品供給高計		2,006,426	2,088,000	2,088,000	2,088,000

### 販 売 事 業

#### 事業取扱高計画

(単位：千円)

項 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
農 産	米	724,004	763,000	739,000	730,500
	麦	142,820	191,000	191,000	200,000
	大 豆	193,238	185,000	192,000	204,500
	小 計	1,060,062	1,139,000	1,122,000	1,135,000
園 芸	いちご	2,962,637	3,323,000	3,400,000	3,450,000
	青ねぎ	262,529	291,000	300,000	310,000
	アスパラガス	584,615	590,000	600,000	630,000
	その他園芸	69,430	58,000	60,000	60,000
	小 計	3,879,211	42,692,000	4,360,000	4,450,000
特 産	しめじ	1,608,629	1,563,000	1,580,000	1,600,000
	えのき	755,084	764,000	770,000	780,000
	その他特産	34,981	21,000	20,000	20,000
	小 計	2,398,694	2,348,000	2,370,000	2,400,000
直 売 所		149,371	175,000	190,000	200,000
販売品販売高計		7,487,338	7,924,000	8,042,000	8,185,000

(単位：千円)

項 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
<b>1. 事業総利益</b>	1,251,530	1,258,000	1,266,000	1,276,000
信用事業総利益	313,493	297,000	300,000	303,000
共済事業総利益	303,746	291,000	293,000	295,000
購買事業総利益	281,221	280,000	281,000	282,000
販売事業総利益	170,152	185,000	193,000	198,000
保管事業総利益	▲1,535	▲1,500	▲1,500	▲1,500
加工事業利益	522	0	0	0
利用事業総利益	47,473	48,500	44,500	40,500
葬祭事業総利益	11,760	31,000	36,000	40,000
カントリー・大豆事業総利益	140,600	149,000	143,000	143,000
指導事業収支差額	▲15,902	▲22,000	▲23,000	▲24,000
<b>2. 事業管理費</b>	1,186,161	1,183,000	1,186,000	1,190,000
(1) 人件費	750,682	745,000	763,000	778,000
(2) 業務費	100,500	105,000	102,000	101,000
(3) 諸税負担金	83,489	78,000	78,000	78,000
(4) 施設費	246,510	250,000	239,000	229,000
(5) その他事業管理費	4,979	5,000	4,000	4,000
<b>3. 事業利益</b>	65,369	75,000	80,000	86,000
事業外収益	49,958	45,500	45,500	45,500
事業外費用	419	500	500	500
<b>4. 経常利益</b>	114,908	120,000	125,000	131,000
特別利益	30,508	30,000	30,000	30,000
特別損失	342,966	35,000	35,000	35,000
<b>5. 税引前当期剰余金</b>	▲197,550	115,000	120,000	126,000
(1) 法人税、住民税及び事業税	14,082	25,000	25,000	26,000
(2) 法人税等調整額	▲89,831	0	0	0
<b>6. 当期剰余金</b>	▲121,801	90,000	95,000	100,000





## 福岡大城農業協同組合

〒830-0416 三潯郡大木町大字八町牟田 330  
Tel 0944-32-1300 Fax 0944-33-1662  
URL <http://www.jafooki.or.jp/>